

オックスフォード大学
REES センター

Siblings Together バディ・プロジェクトの評価

最終報告書 2017 年 3 月

Judy Sebba

研究者：Jo Dixon、Jade Ward、Khatija Hafesji、Judith Clare、Áine Kelly、Vânia S. Pinto

…人間関係の連続性、自分が何者でどこから来たのかという感覚がどれほど重要か、過小評価することはできません。（バディ、Siblings Together プロジェクト）

謝辞

この研究に参加してくださった子どもや若者たち、バディ、里親、児童養護施設の管理者、ソーシャルワーカーの皆さんに感謝致します。また、この研究を依頼した Siblings Together の CEO 最高経営責任者である Delma Hughes 氏に感謝するとともに、実施パートナーである Family Action の協力にも感謝致します。本研究は、Esmée Fairbairn、Tudor Trust、Sofronie から受けた Siblings Together の助成金によって実施されました。

また、本プロジェクトの初期段階から関わってくださった Rees Centre の同僚の皆さん、特に Andrea Diss 氏およびオックスフォード大学社会政策学部の Ann Buchanan 教授のサポートにも感謝致します。本レポートに記載されている見解は、筆者のものであります。

Judy Sebba、2017 年 3 月

本報告書は早稲田大学社会的養育研究所がオックスフォード大学 Judy Sebba 教授から許可を得て、原著 Evaluation: Siblings Together Buddy Project (2017) を日本語訳したものです。日本語訳作成をご快諾いただいた Judy Sebba 教授、監訳チームで本論文をご担当いただいた中川友生先生、そして本事業に助成していただいた日本財団に心より感謝申し上げます。

早稲田大学社会的養育研究所
所長 上鹿渡和宏

目次

要旨.....	4
背景.....	4
本文.....	7
背景.....	7
主な知見.....	11
課題.....	21
結論.....	23
提言.....	24

要旨

背景

Children and Young Persons Act 児童・青少年法（2008）¹は地方自治体に対して、合理的に実行可能な範囲で、福祉的配慮を前提に、兄弟姉妹を一緒に養育する義務を課している。国際的な政策も同様に、兄弟姉妹を一緒にの措置とすることを奨励している。英国で行われた最近の調査²によると、地方自治体のケアを受けている兄弟姉妹グループの約半数が兄弟姉妹と離れて養育されており、1人以上の兄弟姉妹がいる子ども達の3分の1以上が、どの兄弟姉妹とも一緒に暮らしていないことがわかった。

Rees Centre が最近行ったレビュー³では、兄弟姉妹が同じ里親に委託されたグループは、より安定した里親委託措置を経験していると結論づけている。兄弟姉妹が同じ里親に委託されていたにもかかわらず、その後に兄弟姉妹から引き離された年長の子どもたちは、里親家庭での措置解除のリスクや帰属意識の低下のリスクが特に高いことが明らかになった。特に、兄弟姉妹が同じ時期に里親委託措置を開始した場合、兄弟姉妹が一緒である方が実親家族との家族再統合の可能性が高くなっていった。

バディ・プロジェクト

2013年に始まった Siblings Together バディ・プロジェクトは、里親養育や養子縁組で離れ離れになった兄弟姉妹を再び結びつけるための革新的なアプローチである。このプロジェクトでは、ボランティアを募って「バディ」として養成し、月に一度、兄弟姉妹と一緒に活動を楽しめるようにサポートする。バディ達は、兄弟姉妹グループが楽しみながら有意義な活動に参加し、より強い絆を育み、兄弟姉妹グループを強化し、それぞれの子どもや若者が直面する課題をサポートすることを目的としている。Siblings Together は、このプロジェクトを支援するために、モデルを説明し、活動についての提案をまとめたハンドブックを作成した。この評価レポートは、2015年2月に開始し、2016年12月に完了した第2期のレポートである。

評価の目的

Rees Centre は、バディ・プロジェクトが若者、バディ、そして若者を養育する人たちに与える影響を評価するために、プロジェクトの独立した評価を行った。特に以下の評価に取り組んだ。

- プロジェクト参加期間における、参加した子どもと若者の幸福度の変化
- 兄弟姉妹間の関係および、兄弟姉妹以外の家族との交流における変化
- 里親養育提供機関や里親が若者への同様のサービスを提供するように説得するエビデンスを含むプロジェクトの長期的な持続可能性

¹ Children and Young Persons Act (2008) London: The Stationery Office 11/2008

² Ashley, C. and Roth D. (2015) *What happens to siblings in the care system?* Oxford: Family Rights Group

³ Meakings, S., Sebba, J. and Luke, N. (2017) *What is known about the placement experiences and outcomes for siblings in foster care? An international literature review* Oxford: The Rees Centre

方法論

若者、バディ、里親（および児童養護施設の管理者）、ソーシャルワーカーとのインタビューを含む混合研究法を採用した。若者の帰属意識と幸福度の評価は、標準化された尺度を用いて実施した。文書分析は、毎月の兄弟姉妹ミーティングの際にバディが記入した日誌をもとに行われた。18人の若者、15人の里親、12人のバディ、4人のソーシャルワーカーにインタビューを行った。これらのデータは、若者の幸福度の評価とバディが兄弟姉妹ミーティングの際に記入した39の日誌の分析によって補完された。

結論

バディ・プロジェクトでは、6つの地方自治体の7つの兄弟姉妹グループの中から、兄弟姉妹の一部または全員と離れて養育されている23人の若者のために、様々な頻度の定期的ミーティングを開くことに成功した。2016年初めには、さらに8人の子どもからなる兄弟姉妹グループがプロジェクトに紹介されたが、サービス提供チームがかなりの時間を費やしたにもかかわらず、兄弟姉妹は会うことができなかった。評価期間中、45回のミーティングが行われ、16人のボランティアのバディが66の異なる活動で若者をサポートした。これらの若者たちが経験してきた不安定さ、中には深刻な事例もあり、兄弟姉妹グループ内の個人が地理的に分散して生活していたことを考えると、これは大きな成果と言える。

関った子どもや若者の幸福度の変化

1つの例外を除いて、若者自身、里親、バディから得られたエビデンスは、特にソーシャルワーカーや里親が交流を監視していない状況で、若者が兄弟姉妹との交流を非常に楽しんでいることを示している。このミーティングで経験した新しい活動が大きな魅力だった若者もいるかもしれない。しかし、一番の魅力は兄弟姉妹に会えることであり、ほとんどの者が兄弟姉妹に会っている間は幸せそうにしており別れたがらなかった。また、若者らはもっと頻繁に、もっと長時間、兄弟姉妹と交流したいと報告した。バディ達の質の高さがこれに貢献していた。

5人の若者の行動が大幅に改善されたことが報告された。10代後半の若者の幸福度は、兄弟姉妹だけでなく法的な養育状態に縛られない公平な立場にあるバディと、将来のこと、人間関係、大学、住まいなどについて話し合う機会を通して高められた。若者が自信を深め、アイデンティティを確立し、家族の一員である感覚を高めていることがエビデンスを通じてうかがえた。

兄弟姉妹間の変化と、それに関連した兄弟姉妹以外の家族との交流

ほとんどのケースで兄弟姉妹間の変化が大幅に改善された。特にプロジェクト外で兄弟姉妹と定期的な交流を経験していなかったケースでは、その効果は顕著であった。3つのケースでは、関係が劇的に改善したと報告されている。その他については、人間関係がより親密になり、愛情が深まり、支え合うようになり、楽しさや笑いの源となった。措置変更、死別、人間関係の問題などの危機的状況の中で、兄弟姉妹がお互いに支え合ったこともあった。兄弟姉妹が共に経験した歴史を認めあうことで、家族の一員としてのアイデンティティをより強く意識するようになった若者もいた。

兄弟姉妹との交流が増えたことが、兄弟姉妹以外の家族との関係に影響を与えたというエビデンスはあまり見られなかったが、一部の里親は、自信や行動の改善が若者の家庭生活を前向きにしていると報告している。

プロジェクトの長期的な持続可能性

この評価から、離れて養育を受ける兄弟姉妹を引き合わせることのメリットが明らかになった。しかし、若者たちはプロジェクトの終了により、兄弟姉妹とのミーティングがなくなったことに落胆し、若者たちとその里親たちは、プロジェクトの長期的な継続の必要性について懸念を示した。

私たちは費用対効果の分析は行っていないが、このことは本プロジェクトと同様のサービスの運営を検討する際の参考になるだろう。このサービスの費用は比較的安く、バディのボランティア精神に大きく依存しているが、旅費、活動費、調整やバディの研修には相当な費用がかかっている。しかし、若者の里親養育措置がより安定し、里親の定着が可能であることが証明されれば、間違いなく費用対効果は高くなるだろう。

提言

このプロジェクトを進めていくために、あるいは他の地域で展開するためには、提供機関が検討すべき課題がいくつかある。

・関係者が期待されることを提供機関が明確に述べ、定期的に再確認する必要がある。

サービス提供機関は里親や児童養護施設の管理者に対して、プロジェクトの運営方法や、旅費、若者の待ち合わせ場所への同行、必要なお小遣いの請求、プロジェクト期間など期待することを明確に説明する必要がある。また（里親養育提供機関や独立した評価機関に対して）フィードバックが必要であることも伝えておく必要があるだろう。

バディの募集と研修では、バディが長距離移動をすること、移動を伴う活動に一日を費やすこと、活動を計画することなど、バディに期待されることをとりあげる必要がある。サービス提供機関は、この評価でバディが提案した、バディのためのオンライン・フォーラムの開催や継続的なネットワークの構築、またバディのハンドブックへのアクセス権の確保などを検討するとよいだろう。

提供機関は、バディがボランティアであり、プロジェクトに参加することを選択したこと、活動や飲食のための予算が限られていることを、若者が理解する能力がある場合には、（募集の過程を通じて）若者に確実に理解させる必要がある。

・若者の募集

全体的には、通常の課題である里親養育の措置解除や地方自治体の対応の遅れなどが発生し、当初の計画よりも若者の募集が遅れた。最初は里親養育組織（The Fostering Network など）や里親養育経験者組織（年長の若者にまだ里親に養育されている兄弟姉妹がいる場合）を通じて若者を募集し、基準を満たしていることが明らかになった時点でソーシャルワーカーに参加してもらうことは可能だろうか？

・兄弟姉妹グループの規模と年齢範囲

2つのグループでは年齢の幅が広がったため、最年長者と最年少者の両方にとって年齢的にふさわしい魅力的な活動を提供することが大きな課題となった。しかし、ミーティングの目的は兄弟姉妹が集まることであるので活動そのものよりも「一緒にいること」が重要であり、そのために選ばれる活動や環境は、そのことを反映したものでなければならない。

・予算

今後のプログラムでは、地方自治体の予算と貢献度をさらに明確にする必要があるかもしれない。Siblings Together が作成したハンドブックをもっと活用すべきである。このハンドブックには成功した活動のリストやプロジェクト参加者が割引を受けられるクーポン券の入手方法が記載されている。バディが活動費を前払いして、費用を事後に請求する仕組みは、再検討が必要かもしれない。

本文

背景

Siblings Together は社会的養育により生活する若者が離れて暮らす兄弟姉妹と交流できるようにすることを目的とした慈善団体である。社会的養育を受ける若者が、家族の強い絆を築くために、兄弟姉妹と交流することを支援することを目的としている。サマーキャンプ、毎月の活動日、メンタリング制度^{監訳者注1}、創造的なワークショップ、ボート旅行などを実施し、兄弟姉妹が連絡を取り合い一緒に過ごす時間を楽しむことを目的としている。

監訳者注1 経験のある者が経験の少ない者をサポートする仕組み

The Children and Young Persons Act 児童・青少年法 (2008) ⁴は、地方自治体に対して、合理的に実行可能な範囲で、かつ福祉的配慮を前提として、兄弟姉妹と一緒に養育する義務を課している。国際的な政策も同様に、兄弟姉妹を同じ里親に委託することを奨励している。南オーストラリア州の Office of Guardian for Children and Young People ⁵では、兄弟姉妹は可能な限り同じ里親に委託されるべきであり、離れて養育されている場合には、その交流を促進すべきであると述べている。米国では2008年に導入された連邦政府の政策⁶で、兄弟姉妹が同じ里親に委託されるように「合理的な」努力をしなければならず、一緒に養育されない兄弟姉妹については、彼らの幸福に反する場合を除き、頻りに交流できるように手配すべきとされている。このような法律上の要求にもかかわらず、英国で最近行われた調査⁷によると、地方自治体の社会的養育の下で生活する兄弟姉妹グループの半数近くが兄弟姉妹と離れ離れに暮らしており、1人以上の兄弟姉妹がいる子ども達の3分の1以上が、兄弟姉妹の誰とも一緒に暮らしていないことが明らかになった。

先行研究⁸では、兄弟姉妹と一緒に養育することで、家族としての強い絆を育み、兄弟姉妹の関係に支えられた自立した生活を実現できるとされている。Rees Centre が最近行ったエビデンスのレビュー⁹では、同じ里親に委託された兄弟姉妹グループは、里親委託措置がより安定している⁹と結論づけている。しかし、里親委託措置の安定性について検討したすべての研究でこれが実証されたわけではない。当初は兄弟姉妹と同じ里親に委託されていたにもかかわらず、兄弟姉妹から引き離された年長の子どもたちは、措置解除や、家庭への帰属意識低下のリスクが特に高いことが明らかになった。特に、兄弟姉妹が同時期に里親委託措置を開始した場合、兄弟姉妹の委託された里親が同じである方が実親との家族再統合の可能性が高くなる。また、一緒に里親委託措置された兄弟姉妹達の再会もより早い。

⁴ Children and Young Persons Act (2008) London: The Stationery Office 11/2008

⁵ Office of the Guardian for Children and Young People. (2012) 2011-12 annual report. Adelaide: Office of the Guardian for Children and Young People. Available: <http://www.gcyp.sa.gov.au/2012/11/annual-report-2011-12/>

⁶ Wojciak, A. (2016) 'It's complicated.' Exploring the meaning of sibling relationships of youth in foster care. *Child and Family Social Work*, doi:10.1111/cfs.12345.

⁷ Ashley, C. and Roth D. (2015) *What happens to siblings in the care system?* Oxford: Family Rights Group

⁸ Hegar, R.L. & Rosenthal, J.A., (2011) Foster children placed with or separated from siblings: Outcomes based on a national sample. *Children and Youth Services Review*, 33(7), pp.1245-1253.

⁹ Meakings, S., Sebba, J. and Luke, N. (2017) *What is known about the placement experiences and outcomes for siblings in foster care? An international literature review* Oxford: The Rees Centre

バディ・プロジェクト

2013年に始まった Siblings Together バディ・プロジェクトは、里親委託や養子縁組で離れ離れになった兄弟姉妹を再び結びつけるための革新的な取り組みである。このプロジェクトでは「バディ」となるボランティアを募集し養成した。バディは月に一度、兄弟姉妹と一緒に活動を楽しめるようにサポートする。Siblings Together は、このプロジェクトを支援するためにモデルを説明し活動の提案を行うハンドブックを作成した。バディは兄弟姉妹グループが楽しんで有意義な活動に参加することをうながす。バディは、兄弟姉妹間のコミュニケーションや関係性を改善することでより強い絆を築き、生涯にわたる関係を育むことを目的とし、兄弟姉妹グループを強化し、それぞれの子どもや若者が直面する課題をサポートする。

プロジェクトの第1期では、2013年8月から2014年12月まで、Bristol 地域を中心に、3人姉妹と兄妹の2つのグループが参加した。第1期の評価は2015年に報告されており、その概要は付録3に記載されている。第2期は2015年2月に開始し、2016年12月に最終インタビューを終えた。この第2期での評価が本レポートの焦点である。

バディ・プロジェクトの目的

バディ・プロジェクトの主な目的は以下の通りである。

- 定期的に交流することで兄弟姉妹グループの絆を深める
- 家族の絆を深める
- 兄弟姉妹間の帰属意識と関係性を向上させる

長期的な目的は、法律で定められた最低限の交流頻度を超えて、地方自治体が兄弟姉妹間の交流に責任を持って対応することを目指している。

評価の目的

Rees Centre は、バディ・プロジェクトの独自評価を行い、このプロジェクトが若者、バディ、そして若者を養育する里親らに与える影響を評価した。また、プロジェクトの長期的な持続可能性についても検討した。特に、この評価では、以下の点を取り上げられた。

- 参加期間における、参加した子どもと若者の幸福度の変化
- 兄弟姉妹間の関係の変化と、それに関連した兄弟姉妹以外の家族との交流
- 里親養育提供機関や里親が若者への同様のサービスを提供するように説得するエビデンスを含むプロジェクトの長期的な持続可能性

方法論

若者、バディ、里親（および2人の児童養護施設の管理者）、ソーシャルワーカーとの面接を含む混合研究法を採用した。里親と児童養護施設の管理者へのインタビューは、Rees Centre でインタビューの研修を受けた経験豊富な里親が電話で行なった。若者へのインタビューは、インタビューの研修を受けた里親委託措置の経験がある2人の若者が行なった。バディとソーシャルワーカーへのインタビューは、3人の研究者によって実施された。この研究者うち1人は里親委託措置の経験者である。さらに、若者の帰属意識や幸福度の評価は、標準化された尺度から抽出した項目を用いて行ったが、回答がランダムであったため有効なデータはあまり得られなかった。若者たちに実施したインタビューのスケジュールと評価については、付録1を参照のこと。毎月の兄弟姉妹ミーティングの際にバディが記入した日誌の文書分析を実施した。匿名で記入された日誌を付録2に掲載する。

収集されたデータを表1にまとめている。時系列での変化を把握するために、可能な限り1人につき2回のインタビューを行った。これは特に里親らとの間で成功した。里親らは観察された若者の重大な変化について報告することができたが、これらをバディ・プロジェクトのみの成果とみなすことには注意を払った。しかし、措置変更や、6人の若者がプロジェクトとの連絡を絶ってしまったこと、里親やソーシャルワーカーが若者への接触を拒否したり、デリケートな状況を理由に若者にインタビューをしないよう強く勧めたりしたため、参加したすべての若者に2回のインタビューを行うことができなかった。プロジェクト終了時には連絡つかなくなったバディもいた。子どもを担当するソーシャルワーカーは入れ替わりが激しく、また一般的に評価への参加を望まないためインタビューするのが特に困難であった。しかし、バディと若者への最初のインタビューは、提供機関との間で合意された数回の兄弟姉妹ミーティングの後に行われたため、分析のための豊富なデータを得ることができた。

表1：収集されたデータの概要

収集データ	参加者数	回収データ総数 ¹⁾
若者へのインタビュー	18人	22人
帰属意識と幸福度に関する尺度 サークル作成作業 ²⁾	18人	22人
里親らへのインタビュー	15人 ³⁾	29人
バディへのインタビュー	12人	18人
ソーシャルワーカーへの インタビュー	4人	4人
ミーティング日誌の分析	対象：若者23人 バディ16人	日誌39件

- 1) 一部の参加者は2回面接を受けた。
- 2) インタビュースケジュールと活動は付録1に示す。
- 3) 参加者のうち2名は、児童養護施設の管理者だった。

6歳以下の3人の兄弟姉妹はインタビューを行わなかったが、サークル作成作業は彼らと一緒にやった。そのグループの他の兄弟姉妹、里親、バディにはインタビューを行なった。

倫理的承認

オックスフォード大学倫理委員会より倫理的な承認を受けた。若者と交流する研究者は全員、最新の DBS 監訳者注 2 承認を受けた。プロジェクトに関する情報シートは、若者、里親、バディ、ソーシャルワーカーに提供されインタビュー前に同意書の記入を求めた。評価の目的と、いつでも参加を辞退できる権利を最初からすべての参加者に明示した。ソーシャルワーカーと里親らに若者がインタビューに参加することへの同意を求めた。(実際にはいなかったが) もしインタビュー中に苦痛の兆候が見られた場合には、さらなる支援を得るためにプロジェクトマネージャーに紹介された。若者は、自分自身または他の人への危害を示唆する情報を開示した場合、ソーシャルワーカーに報告されることを知らされた。守秘義務と匿名性が保証されており、すべてのデータは大学の安全なサーバーに保存された。参加者には、他の個人情報とは別に保存されている匿名化されたコードを表示し、一般に公開される資料では、個人を特定する可能性のある情報を削除している (したがって、データ保護法に準拠している)。

監訳者注 2 : DBS check とは、その人の犯罪歴を記載した公式記録を確認すること。

主な知見

プロジェクトの参加者

6つの地方自治体の7つの兄弟姉妹グループの23人の若者たちが、16人のバディの支援を受けた。2016年初頭には、さらに8人の子ども達からなる兄弟姉妹グループが本プロジェクトに紹介された。しかしサービス提供チームが関与しようとする多大な努力を行った後に里親が関与を辞退したため、ソーシャルワーカーは、さらなるサポートを提供することができなかった。そのため彼らは会うことはなかった。23人の若者には14人の里親がおり、そのうち6人はプロジェクト開始時に兄弟姉妹のうち2人以上を養育していた。2人の若者は、プロジェクトの開始時に、児童養護施設または特別支援学校にいた。7つの兄弟姉妹グループのうち5つのグループは、大きなグループの中で一緒に生活していた兄弟姉妹ペアと離れて暮らしていた兄弟姉妹ペアがあった。表2に、若者たちの特徴を示す。

表2：若者の特徴

兄弟姉妹グループ	グループ内の兄弟姉妹の数と性別	プロジェクト開始時の年齢	措置	プロジェクトに参加していない他の兄弟姉妹
LA1	女子3人	16、14、11歳	里親委託 - 2人で参加した後、最後に3人で参加	年上の兄弟姉妹、詳細不明
LA2	女子3人	16、14、11歳	別の里親委託	男の子2人
LA3 - グループ1	4人（男子2人、女子2人）	11、9、6、5歳	里親委託 - 男子2人が一緒、女子2人が一緒	兄1人、姉2人
LA3 - グループ2	女子4人	18、14、12、9歳	里親委託 - 女子2人が一緒	男の子2人
LA4	2人（男子1人、女子1人）	双子、14歳	里親委託1人、児童養護施設1人	年上の兄弟姉妹5人
LA5	4人（男子2人、女子2人）	12、8、6、5歳	里親委託 - 男子2人が一緒	年上の兄弟姉妹、詳細不明
LA6	3人（男子2人、女子1人）	14、12、10歳	里親委託 - 最初は男子と女子が一緒にいた。	

7つの兄弟姉妹グループのうち6つには他の兄弟姉妹がおり、そのうち3つのグループでは合計6人以上の兄弟姉妹がいた。しかし異母兄弟姉妹や里親の息子や娘も「姉」や「弟」と呼ばれていたため、兄弟姉妹の正確な定義は難しいものであった（Meakings et al (2017) にはこれに関する考察がある）。これらの追加の兄弟姉妹は、ほとんどがずっと年上で、プロジェクトの参加者とは同居しておらず、プロジェクトにも参加していなかった。プロジェクトに参加している年長の兄弟姉妹が、別の時間にプロジェクトに参加していない年長の兄弟姉妹と会うことについて言及することがあり、このことが、その兄弟姉妹と交流していない年少の兄弟姉妹を動揺させることがあった。

兄弟姉妹間の交流

本プロジェクトでは、12ヶ月間にわたり兄弟姉妹グループに月1回の交流を提供することを目標とした。ソーシャルワーカーを介して対象となる若者を募集する際の課題、措置変更、適切なボランティアのバディの長期的な関わりなどにより、提供のパターンには必然的にばらつきが生じた。3つのグループは1年未満でミーティングを中止したが、他の4つのグループは1年以上ミーティングが継続していた。表3は、毎月のミーティングの実施状況をまとめたものである。

表3：毎月のミーティングの頻度、期間、タイムスケール

兄弟姉妹グループ	プロジェクトに参加した兄弟姉妹の人数	兄弟姉妹ミーティングの期間	ミーティング回数	ミーティングの標準的な時間 (単位：時間)	平均往復所要時間
LA1	3人	7月15日～2月16日	4回	5時間	不明
LA2	3人	6月15日～9月16日	7回	2.4時間	55分
LA3 - グループ1	4人	5月15日～8月16日	8回	3.75時間	1.7時間
LA3 - グループ2	4人	9月15日～5月16日	6回	3.25時間	1.7時間
LA4	2人	4月15日～11月15日	3回	3.8時間	4.6時間
LA5	4人	2月15日～5月16日	7回	2.9時間	1時間
LA6	3人	2月15日～9月16日	10回	3.5時間	1時間

評価期間中に 45 回のミーティングが開催され（一部のグループは継続して開催）、39 枚の日誌シートが記入された。いくつかのグループではミーティングの間に大きな空白期間が生じた。LA3 グループ 1 では、ミーティングのない 2～3 ヶ月の空白期間が 3 回あり、LA2 と LA4 では、5 回目と 6 回目のミーティングの間、および 2 回目と 3 回目のミーティングの間に、それぞれ 5 ヶ月の空白期間があった。これらの空白期間はいずれも夏の間で、措置変更またはバディの変更、里親家族のイベントやその他の用事と重なっていた。このような空白期間が生じたとき、兄弟姉妹はお互いに寂しいと報告し、バディはこのことを以下の例のように日誌などで確認していた。

子どもたちは、明らかにお互い会いたがっていました。子ども達は、会えばハグをし、道路を渡るときは手をつなぎました。男の子はいつも女の子に気を配り、彼女たちが常に安全であることを確認していました。子どもたちは活動の間ずっと、互いに助け合い、すべての活動に参加するように互いに励ましあっていました。帰りのバスを待っているときに、【名前】が【兄弟】にダンスを教えていて、バス停でダンス対決をして、みんなで楽しんで笑っていました。（日誌、ミーティング 6、LA5）

プロジェクト開始時には、5 つの兄弟姉妹グループのうち 6 組の兄弟姉妹と一緒に生活していた。すべての若者が、里親委託が始まった当初は同居していない兄弟姉妹とはるかに多く交流していた（例：週に数回）が、プロジェクトの開始時には、はるかに少なくなった（月に 1 回の人もいれば、年に数回の人もいた）と報告した。すべての若者たちがプロジェクトによって兄弟姉妹に頻繁に会う機会が与えられたことを気に入っており、以前の監視下での交流よりも準備されていると述べた。

ほぼすべての若者が、以前の兄弟姉妹との交流は交流センターで行われ「職員」が彼らを観察しメモを取っていたことについて否定的な意見を述べている。例として、二人の若者のコメントを紹介する。

私たちは、交流センターで会っていました。そこには、ゲームなどがあります。私たちは外出することもなく、ただ座って食べたり飲んだりしていました…交流センターは好きではありませんでした。退屈で、お互いに顔を突き合わせているだけなのに、女性が座って私たちを観察していて、何かを書き留めていました。私はそれが嫌でした。（YP3、LA3、グループ 2）

別のコメント。

誰かに見られている、何か書かれているというのが嫌なのです。自分のやっていることがすべて間違っているように思うのです。私は子どもの頃、本当に妄想が強かった…。私たちの交流は本当に少ないものです。公園などに出かけることが許されるといいですね。（YP1、LA4）

若者たちはこれらの経験を、プロジェクトを通じて得られた交流と対比させていた。

彼ら【兄弟姉妹】と会って、いろいろなことをするのは楽しいです。【プロジェクトについて】何も変えることはありません。すべて気に入っています…。里親養育が始まったときは、兄弟姉妹達と会えなかったけど、今はよく会っています。兄弟姉妹と会えないことは悲しいことだと思うし、私は動揺していました…【でも、今は】幸せだと感じています。（YP1、LA2）

また、若者たちは、このプロジェクトに参加する前に経験したよりも兄弟姉妹間の交流時間が長くなったと語っている。しかし、「プロジェクトの改善点」を尋ねる質問に対しては、多くの人が、交流の頻度や時間をもっと増やしてほしいと望んでいた。例えば、ある若者が次のように語っている。

最後に交流したのは、兄弟達と一緒に公園に行ったときでした。ボート漕ぎをしましたが、とても楽しく、みんなで楽しめました。【でも、】2 時間では足りないので、2 時間以上の時間がほしいと思いました。時間制限を設けるべきではないです。それをする【計画】のようで、すべて形式的な「交流」のようで、普通ではありません。【さらに】毎週のように、もっと頻繁に会うべきだと思います…。（YP3、LA6）

これは、期待することとのズレを示しており、これについてはさらに検討する。ほとんどのミーティングには兄弟姉妹全員が参加していたが、45回のミーティングのうち6回は、1人の兄弟姉妹（通常は年長の兄弟姉妹）が欠席しており、出席した兄弟姉妹は、欠席した兄弟姉妹と会えないことに失望することがあった。あるバディは、「自分が関わるようになってから、若者たちを車で迎えに行くようになった。それにより若者の出席率が格段に上がった」と語っている。

また、バディのインタビューや日誌には、里親が直前になって手配を変更したり、土壇場でキャンセルしたりしたという語りがあったが、これはまれなことである。バディが来なかったために計画が狂ってしまったと、まれな事例について語った若者がいたが、一般的に、誰もがミーティングを実現するために力を尽くしバディや里親はしばしば広範囲の移動を行っていた。

ミーティングで行われた活動

表4：毎月のミーティングで行われた活動の頻度（各ミーティングで1つ以上の活動を記録）

活動	ダイアリーに記載された回数
公園／フィールドアスレチックへのお出かけ	14回
マクドナルド／ピザ／レストラン	8回
ボウリング	7回
ピクニック	6回
水泳	5回
映画	4回
アイススケート	3回
博物館（自然史博物館、ホーニマン博物館、HMS ベルファスト博物館、海事博物館など）	4回
足こぎボート	2回
屋内遊び場	2回
レーザー・クエスト <small>監訳者注3</small>	2回
陶芸／陶器ペインティング	2回

監訳者注3：屋内競技場で、レーザーに感知するジャケットを着た複数の参加者がレーザー銃で撃ち合うアトラクション。

受け取った39件の日誌シートには66回の活動が記載されていた。表4に示すように、最も人気があったのは「公園に行く」で、これは兄弟姉妹がお弁当を食べることができ、外食の追加費用を最小限に抑えられるためミーティングの一環として行われることが多い。しかし2番目に人気があったのは「レストラン（手頃な価格のもの）」であった。これは、インタビューで語られているように、話したり、笑ったり、何人かが「一緒にくつろぐ」と表現した時間を兄弟姉妹が必要としているというバディたちの認識を反映しているのかもしれない。バドミントン、野生動物公園、水族館、図書館、消防署、エミレーツ航空のケーブルカー、ビーチ（海岸近くに住んでいる若者がいる）など、1回しか報告されていない活動もあった。

多くの若者が、陶芸、屋内遊び場、レーザークエスト、水泳、ボウリング、アイススケートなどの心躍る活動について語ってくれた。中には、「公園にしか行かないからつまらない」という人も2人ほどいた（日誌シートを見ると、あるグループは3回、他のグループは2回までしか行かなかったようである）。

日誌によると、若者は最近の休暇、スポーツ、テレビ、学校、友人、ボーイフレンド、住んでいる場所、

里親、プロジェクトに参加していない他の兄弟姉妹、継父母などについて話していた。毎回のミーティングでは、主に次のミーティングで何をすべきかについて話し合われた。年長の兄弟姉妹は、ミーティングで個人的な将来の計画（大学、住宅、生活費など）について話し合う機会を得たことを評価しているようで、特に金銭面の問題に関してバディのサポートを受けることが多かった。中には「つらい」話題も出た。例えば、措置解除、実親、互いに離れてしまったこと、一緒に元のように戻れるとどんなに良いかなどであった。あるバディは、女の子が「お母さんにどれだけ怒っているか、お母さんを許さない。お母さんが自分たちの面倒を見てくれず、家をきれいにしてくれなかったために、自分たちが離ればなれになったからだ」と語ったことを報告している（日誌、ミーティング5、LA3）。

インタビューを受けた若者たちは皆、兄弟姉妹に会えたことをとても喜んでおり、話をする機会が持てて助かったと述べていた。1人が以下のように語った。

…みんなで集まって笑ったり、冗談を言ったりします。一番楽しかったのは、海水浴に行った時のことと私の遅れた誕生日を祝ってもらったときです。（YP3、LA3、グループ1）

たまに口論となることや「喧嘩」になることもあったが、ほとんどが控えめな口論であり、バディたちが友好的に解決した。

バディについて

16名のバディの内訳は、女性14名、男性2名であった。インタビューを受けた12人のうち、8人は以前に子どもたちと働いた経験があり、2人はソーシャルワーカーとして（1人は里親養育の経験者）、1人はセラピストとして、1人はカウンセラーとして、その他の人はさまざまな役割を果たしていた。また2人は里親養育で育ち兄弟姉妹から引き離された経験があった。5人は現在、ソーシャルワーク、心理学、またはその他の学位を取得している学生であった。

バディになった理由

このプログラムに参加した理由は、「何か面白いことをしたい」、「非常にやりがいのある重要な活動だ」など様々であった。何度もミーティングを経験しているうちに、人間関係の発展を見て大きな満足感を得たことや、子どもを連れて出かける自信がついたことなど、半数の人が自分に有益であったことを報告してくれた。

いつも若者を連れ出す人になりたいと思っていました…よくグループでやっているのを見て、自分もやってみたいと思っていましたが、自信がありませんでした…でも今回は少人数で、他のバディのサポートもあったので（当時は4人の若者に3人のバディがついていました）、うまくいきましたし、とても楽しかったです。（B3、LA3、グループ2）

バディの中には、「1年間という大きな委託をされていることを意識していなかった」という人もいた。彼らは、若者と提供機関の両方からの、自分たちへの期待が非常に大きいと感じていた。

私たちは非常に期待されていました。任務をやり遂げるために放っておかれます…。一例を挙げると、バディを変更しなければならなかったとき、私が彼女に面接することになっているかのように「意見をお聞かせください」というメールが届きました。提供機関が私の経験を知っているので、それが私だけなのかどうかはわかりませんが…、その人の生活もあるので、期待が大きすぎます。（B1、LA6）

ある人は、活動は6週間に1回あると思っていたし、何人かは、兄弟姉妹と一緒に活動を調べて計画するというバディの役割を理解していなかった。また別の人は、「半年前からミーティングを予約しておけば、ミーティングを手配して欲しいという要望が減らせるのではないか」という意見もあった。

バディの研修とサポート

Family Action が提供した研修は、バディたちから総じて高い評価を受けた。この分野での専門的な研修を受けた人を含め、複数の者がこのプログラムについて非常に肯定的な意見を述べた。そのうちの一人は、このプログラムが若者たちに必要とされている「人間関係に基づいたアプローチ」であると指摘している。何人かは困難な行動に直面したときにどうすれば良いかについて言及し、何人かのバディはそのような経験をした際にそれに対処できたと感じていた。

またバディたちは、Family Action から提供されたサポートについて総じて好意的で、頻繁に名前があがったスタッフは必要ときに「素晴らしいサポートをしてくれた」と述べていた。あるバディは、そのような正式なスーパービジョン^{監訳者注4}はなかったが（ハンドブックではバディはスーパーバイズされることになっている）、バディはいつでもプロジェクトマネージャーに相談できると述べた。あるバディが次のようにコメントしている。

Family Action からは多くのサポートを受けています。私が主に連絡を取るのは [名前] さんと [名前] さんですが、彼らは素晴らしく、いつも電話で対応してくれ、メールにもすぐに返信してくれます。どんな質問にも丁寧に対応してくれるのです。(B2, LA6)

^{監訳者注4} 対人援助職者が資質の向上のため指導者（スーパーバイザー）から示唆や助言を受ける教育の過程。

バディの効果

総じて、若者たちはバディについて肯定的であった。若者たちが気に入ったのは、バディが横で見ているだけではなく、何をしたいかを聞いてくれて、一緒になって楽しんでくれるような、格好いい存在だったことである。2人の若者は、バディに一度がっかりさせられたことがあり、それが原因でバディに対してネガティブな感情を抱いていた。里親はバディについてとても好意的で、例えばある里親は次のように述べている。

バディは本当に素晴らしい存在です。彼らはとても魅力的なので、すぐに打ち解けました…子どものことをとても考えてくれていて、[子どもの名前] の学習困難に対処する方法にとっても感銘を受けました。(FC2, LA2)

プロジェクトの長期的な持続可能性を計画する上で、さらに検討すべき2つの分野が明らかになってきた。評価中に5人のバディが辞めて他のバディと交代した。ほとんどのバディは、グループ内の他のバディとの関係の重要性を強調していた。研修では他のバディを知るための顔合わせの機会を提供していたが、バディが変わると互いに慣れる時間もなく、すぐに次のミーティングに参加していた。あるバディは、バディたちがネットワークとして集まり、問題点を話し合うことや活動に関する情報を共有するためのオンラインフォーラムを継続的に開催すべきだと提案した。これによってメンバーの概要がわかりやすくなり、必要に応じてバディを別の兄弟姉妹グループに配置転換できるようになるかもしれない（評価期間中に2度あった）。

明らかになってきたもう一つの問題は、若者の期待をコントロールするために、バディに準備させる必要があるということであった。若者たちは、もっと頻繁に、もっと長く、あるいは予算を超えた高価な活動（テーマパークなど）をしたいとよく言っていた。これらの問題については別のところで触れている。あるバディは、交流が終わりに近づいたときに、兄弟姉妹がもっと一緒にいたいと言って反抗してきた

時のことについて述べている。バディの視点から見ると、若者たちはバディたちが限られた時間と予算の中でのボランティアであるという事実に気付いていないように見えたが、プロジェクトが進むにつれ、何人かの年長者は経済的な制約について理解を深めていった。

プロジェクトが若者たちに与えた影響

すべてのバディと、3人（うち2人は同じグループ）を除く里親が、ミーティングは参加した若者にとって大きな成果があったと述べている。否定的な意見を述べた里親のうち2人は、兄弟姉妹グループ内の年齢差が大きすぎて、そのグループの4人の子どもたちが同じ活動をするには有益でないと考えていた（さらに後述する）。また、このグループはプロジェクト以外でも定期的に会っており、実際に全員が同じ学校に通っているため、プロジェクトから得られる付加価値はほとんどなかったと指摘している。他の2つのグループ（LA1とLA4）では、里親たちから兄弟姉妹がプロジェクト外で定期的に交流しているという問題が提起された。1つのケースでは、措置変更により兄弟姉妹が事実上一緒になったため（ただし、1人は地元で独立して暮らしている）、もう1つのケースでは、毎週末に兄弟姉妹が一緒にいたためである。

ある里親は、プロジェクトの性質を理解していないようで、「…その後、家族に会えるという希望を持たせても、それは実現しないのです。これは非常に無意味なプロジェクトです。」と語った。プロジェクトのどの情報源からもこのプロジェクトが若者の誤解を招いたというエビデンスはないため、この人物は間違った印象を受け、より良い情報を必要としていたと考える必要がある。

他の里親たちからは、自信がつき、社交性が高まり、兄弟姉妹のサポートの増加により有益な関係が増えたこと、自分のアイデンティティをより強く確立しているというエビデンスが示唆された。若者たちも同様に肯定的であった。多くの里親は、若者がどれほど交流を楽しんだか、また、いかに交流を楽しみにしていたか、交流後にとっても積極的に話していたかについて報告している。

帰ってきたときの彼の顔を見ると、とても嬉しそうで、いつも彼らの名前や誕生日、そして彼らが何をしているかを話してくれます。これは本当に、本当に、彼らの助けになっていると思います。

(FC2、LA3、グループ1)

ある里親は、養育している若者が特別な支援を必要としており、最初の頃はいつも興奮していて時には手が付けられない状態になることもあったが、今では、その若者はずっと落ち着いているので、非常に有益だったと述べている。他の人と同じように、プロジェクトが終わった後のことをとても心配していた。

バディとの交流がキャンセルされたとき、彼女はととてもとても動揺していたと思います。彼女は知的障害などがあるので、（終了した今）なぜミーティングがないのか、なぜ皆がそこにいないのかを理解するのがとても難しいのです。(FC3、LA2)

(グループによっては、)プロジェクトが終わってしまうと、また連絡が途絶えてしまうという意見が多くあった。

彼らは [バディ達は] 本当に格好良く…とても良いと思います。楽しいです…彼らは私たちを連れ出すように手配してくれます…私たちは楽しいですが、私と弟は、今はお互いに寂しくなるような気がしません…私は本当に楽しんでいますが、それは良いことです。(YP1、LA4)

圧倒的に、若者と里親たちは、プロジェクトが若者にもたらした好影響について明確に述べていた。以下のセクションではインタビューを受けた人たちが、この影響について語った内容から浮かび上がった主なテーマを紹介する。

里親やソーシャルワーカーなしでミーティングすることの意義

若者たち自身も、里親やソーシャルワーカーなしで会う機会を歓迎していると報告している（ほとんどの場合、実親家族との監督下での交流を経験しているため）。若者たちは兄弟姉妹との交流は、実親との交流と別にしてほしいと考えていた。バディは、里親やソーシャルワーカーよりもリラックスしていて活動に参加することが多いと報告されている。しかし2人のバディは、活動には参加せず、兄弟姉妹がバディたち抜きで交流できるようにすることが重要だと考えていると報告している（通常は、兄弟姉妹に「プライベート」を与えるために、カフェの近くの別のテーブルに座るかもしれない）。あるバディは、多くの人が言ったことを要約して、若者たちに提案した。

…本当に良く、本当に前向きでした。彼ら全員の間には明らかに絆があります。彼らはとても自然体で、「一人の子どもがより困難を抱えていて、私たちが里親と会った時とはとても違っていった」というように、彼らにとって完全な変化でした。(B1、LA6)

また別のバディはこう指摘する。

私たちは職員のリストには入っていないですし、プロではないので関係を築くのに役立つと思います。(B1、LA6)

また、里親は、自分たちがいないところで交流することの重要性を指摘している。ある人は、これを次のように要約した。

里親と一緒にいる時よりも、彼らはすぐに一緒になって過ごします…里親の監視のないところで、兄弟姉妹に会い、一緒に楽しんだりすることは、本当にそれが一番いいことだと思います。(FC1、LA2)

ソーシャルワーカーは、若者がソーシャルワーカーや里親がいない「中立的」な環境で会うことがとても重要だと考えている。若者たち自身も、2人の例外を除いてソーシャルワーカーを信頼しておらず、ソーシャルワーカーに自分たちの話を聞いてもらえないと感じていた。全体的に、ソーシャルワーカー、里親、若者は、里親やソーシャルワーカーのいない状態で会うことで、若者が重要な独立性を得られると感じていた。

兄弟姉妹間で育まれる友情、愛情、サポート

若者たちはたいいてい、人間関係が良好になったと報告している。ある女の子は、サポートが必要な場合は（プロジェクトに参加していない）お兄さんを探すとしたが、他のほとんどの若者は、例えばプロジェクトに参加している兄弟姉妹との関係が改善されたというエビデンスを示した。

[このプロジェクトで一番良かったことは、] 妹と仲良くなれたことです。…以前は妹を嫌っていましたが、今は仲良くしています。(YP1、LA3、グループ2)

若者は、兄弟姉妹と言い争いや喧嘩が減り、次のミーティングまでの間にはお互いに寂しさを感じ、より多くのことを話し合えるようになったという意見があった。また、ミーティングの合間に電話で連絡を取り合うという語りもあった。

全体的に、バディは兄弟姉妹がお互いに会うことを楽しんでいることに非常に肯定的であり、ほとんどの日誌には、ミーティングの最後に兄弟姉妹が別れなければならないことが一番つらいことであると書かれていた。あるバディは、他の多くのバディと同じように、この兄弟姉妹グループを「一緒にいると生き生きとしていて、とても活発だが、バディとは全く交流したがらず、兄弟姉妹だけで過ごしている」と表現した。3人のバディは、初期のミーティングでは、兄弟姉妹には難しいと感じていたと語っている。

それは、年齢差によるニーズの違いという理由の場合もあれば、最初はシャイであったり、辛い過去があったりする場合もあった。しかし、それが時間の経過とともに大きく変化し、「一緒に笑っており」、出会いを心から楽しんでいると記録している。

…それは全て、幸せで前向きなものであり、何らかの家族の問題があったとしても、外出している時には、その問題はそこにはないのです。…彼らはお互いを支え合っており、それが本当にいいのです…アイススケートに行ったときも、お互いに助け合ってリンクを回って滑っていましたし、…帰りの車の中では、一緒に後部座席に座っているときにハグをよくしていました…彼らは一緒に充実した時間を過ごしているのです。(B2, LA1)

何人かのバディは、たくさんハグしたり、手をつないだり、愛していると言いつたりして、兄弟姉妹の間で愛情が率直に表現されていることに注目した。あるバディたちは、プロジェクト期間中、特に困難な時期に兄弟姉妹がお互いに支え合う機会が生まれたことを指摘している。例えば、1年間に7人の若者が措置変更を経験した。そのうち1人は3つの里親家庭への措置変更を経験し、もう1人は兄弟姉妹から離れた里親家庭に措置変更した。ある兄弟姉妹グループは、実親の死を経験した。このような時、バディは、兄弟姉妹がお互いにサポートし合っていたことを述べた。

日誌には、ミーティングの間、年長の兄弟姉妹が年少の兄弟姉妹に責任を負っているという強いエビデンスがあった。バディたちは、若者たちが思いやりを持つことは重要だが、例えば、同じような年齢の兄弟姉妹と話すことを犠牲にして、必ずしも常に年長の若者が年少の若者のことに全責任を負う必要はないと言及している。年長の兄弟姉妹はインタビューの中で、暴走したり、挑戦的な行動をとりがちな子どもたちの面倒をバディが見てくれる、プロジェクトのおかげで年長の兄弟姉妹のストレスが軽減したと語っている。これにより、他の兄弟姉妹とリラックスして接することができるようになっただけでなく、互いに恨みを持つこともなくなり、下の兄弟姉妹との関係もより健全なものとなった。

他の家族や里親との関係改善

一部の若者は、里親から里親家族や兄弟姉妹以外の人たちとの関係が良好になったと報告されているが、これがプロジェクトのおかげであるかどうかはまだ定かではない。ある里親は次のように述べている。

…バディ以外との交流でも、人間関係が確実に改善されていて、人の目を気にせずに姉妹と一緒に人前に出ることができるようになり、彼女自身が満足しています。(FC2, LA2)

何人かのバディは、行動の改善を観察し、それは他の人間関係にも引き継がれているようであった。またある里親は、ミーティングが若者と話し合う機会を与えてくれたと語っている。

里親たちは、本プロジェクトを通じて里親としての役割に余裕が生まれ、他のことができるようになったと正直に話してくれた。ある里親は、「…正直に言うと、私の立場からも…自分の考えを整理して物事を進めるための2、3時間を確保することができます…」と語っている。(FC2, LA3, グループ1)

アイデンティティ

若者へのインタビューでは、彼らの帰属意識と、それが本プロジェクトの期間中に変化したかどうかを調査した。「動揺している時は一人にしてもらいたい」と以前に語っていた4人の若者が、フォローアップ時の幸福度評価で、「悲しいときはいつも誰かに元気づけてもらいたい」と語っていた。また、若者は「自分の居場所がある」「いつも話を聞いてもらえる」という感覚が高まったという報告もあった。「友人や家族が自分を見守ってくれている」、「一緒に楽しいことをしてくれる人がいる」、という意見もあった。これらの意見にあるように、若者の他者に支援を求める感覚が改善されていることは本プロジェクトと関連している可能性がある。

重要なのは、兄弟姉妹の交流は、兄弟姉妹の歴史を作ることを通して幸福感につながったことである。

バディ・プロジェクトは、兄弟姉妹に会えるし、一緒に時間を過ごしたり、旅行に行ったりできるので楽しいです。自転車に乗ったり、水族館に行ったり、公園に行ったり、陶芸をしたり…僕はボウルを作りました。今はその中に物を入れて、一緒に陶芸をしに行ったことを思い出します。(YP1, LA5)

また、

[兄弟姉妹との]最後の交流で一番良かったことは会って一緒に過ごせたことです。- 楽しかったです。弟(または兄)の誕生日だったので、公園に行って、ママと一緒によくやったボート漕ぎをしました。(YP1, LA6)

何人かのバディ(主に関連する専門性を持つ者)は、ミーティングが兄弟姉妹の歴史、特に共同で経験した歴史を振り返る機会となり、それが若者のアイデンティティを強化することに貢献していると述べている。

…彼女たちは、自分が何者であるかについて、実に明確な感覚を持っています。私は、彼女たちが自分が何者であるのかを理解するのに役立つのは、多くの場合、偶発的な会話であると感じています…あなたが過去にトラウマ的な歴史があり、連続性の感覚が周囲の状況によって中断された場合…彼女たちにとって、連続性を持ち、物事を再考して、自分が持っている記憶について話すことができることは、とても重要なことです。それは「ねえ、私たちがこれをしたときのことを覚えている?」「ママがこれをしたときのことを覚えている?」という話題が出るのがよくあります。…このプロジェクトがなぜ重要なのかというと、人間関係の連続性、自分が何者でどこから来たのかという感覚が自分にとってどれほど重要か、この重要なことを過小評価することはできないと思います。(B2, LA2)

兄弟姉妹間で誰が家族なのかを話し合うこともあり、2人の弟がバディたちに自分たちは家族の一員なのかと尋ねたこともあった。

子どもたちは、みんなで一緒に暮らしていたときの生活の様子を話してくれました。[2人の名前]は特にそのことを覚えていて、[他の兄弟姉妹]の身支度や髪の毛の手入れなどを手伝ったことを思い出していました。これがきっかけで[2人の年下の兄弟姉妹]は誰が自分の家族の一員なのか混乱してしまいました。彼らは[バディ]に尋ねました。バディ達と自分たちは家族なのかと聞いてきたので、私たちは友達だと答えました。(日誌、ミーティング4、LA3、グループ1)

課題

活動内容

バディの多くは、テーマパークやペイントボールなど高額な活動ではなく、若者にとって魅力的な活動についてのアイデアを考えることの難しさを指摘していた。若者は活動内容が掲載されているハンドブックがあることを知らないようであった。年齢の範囲が広い兄弟姉妹グループをサポートする場合は、この点が特に難しいと感じていた。

しばらく会っていなかったのも、最初はお互いのことをよく知らないようでしたが、だんだん関係が良くなってきました。9歳の子もがいて、一番年長の子は18歳なので、年長の子と年少の子と一緒にやりたいことを見つけるのは少し大変でしたが、全体的にとっても仲が良く、行動も本当に良かったです。グループの1組にいくつかの課題がある時もありますが、それを除けば、かなり良かったです。

(B3、LA3、グループ2)

同じグループの里親たちは、このような幅広い年齢の範囲に対応することの難しさを実感していた。

彼女にメリットがあったとは思えませんし、彼女はもう行きたくないと言っています。彼女は18歳、年少の子は10歳なので、正直言って退屈していました。彼女は、彼らがすることに飽きているだけです。

(FC1、LA4、グループ2)

3人のバディは、活動内容よりも、彼らが一緒に充実した時間を過ごすためのものだと述べている。いくつかのグループは、映画を観に行くという活動が兄弟姉妹の交流を妨げる活動の良い例であり、それゆえに適していないと考えたと述べているが、4つのグループはこの結論に至る前に一度映画を観に行く活動を試していた。

兄弟姉妹の活動への参加

すべてのバディは兄弟姉妹が活動を選んだと報告し、ほとんどの若者と里親たちも、これを確認した。若者たちはバディが自分たちのやりたいことに耳を傾けてくれたと語った。

何をするかは自分たちで決めることができます…どんなことをしたいか聞いてくれます…最近はずっと天気がいいので、[名前]公園に連れて行ってもらって、ボートや自転車に乗ったりしました。次回は[別の公園の名前]に行って、寒くなってきたらアイススケートなどをしようと思っています。(YP3、LA2)

しかし、2人の若者からは、「他の活動もできるようにすべきだ」「何をしたいか聞かれるべきだ」などの意見が出された。これは彼らが活動の決定に、常に影響を与えているわけではないことを示している。ほとんどの若者は、自分のやりたいこと(例:テーマパーク)が駄目でも、バディが他の提案をして若者に選ばせてくれると報告した。つまり、若者はミーティングをよりコントロールできると感じていた。バディは時々、やることを提案したり、その際に予算の制限を兄弟姉妹に思い出させたりしなければならなかったと述べている。バディたちは、活動について考えたり話し合うことが、活動の成功につながることがあると述べた。

資源

慈善団体であるSiblings Togetherは、Family Actionに支払われる資金を受け取っていた。これは、ミーティングのための1セッションあたり50ポンドに相当するが、それに加えて、Family Actionは、各セッションに十分な資金が提供されるように、ミーティングごとに子ども1人あたり20ポンドを地方自治体に請求していた。しかし、2人を除いて全てのバディたちは、特にロンドンでは、食べ物や飲み物も含めると、その金額では足りないと感じていた。そのためバディたちは、若者たちがお弁当を持参

するようにしたり、公園でピクニックをしたりしていたが、悪天候の場合は選択肢がさらに限られた。また、学生であった数人は、費用を配分して、それを請求する必要があることを問題視していた。ほとんどのグループは、2回分の予算をテーマパークなど後のミーティングで使うために、1回のミーティングでは公園やフィールドアスレチックに行った。資金が十分であると考えていた2人のバディのうち1人は、若者がしっかりと予算を立てることを学ぶ良い経験になったと述べ、もう1人は以下のように述べた。

私たちはあまり費用を必要としていないと感じました。公園に行きましたし、サッカーボールはすでに持っていました。旅費は補償されているので、スーパーバイザーを通じて返金します。(B1, LA2)

もうひとつ、バディたちがよく口にしていたのが「時間」であった。3人の若者はロンドンからかなり離れた場所に住んでおり、これらのグループでの兄弟姉妹間の移動距離はそれぞれ30、33、85マイルであった。30マイルの旅では、ロンドンを横断したり、バス3台を使ったりするので2時間近くかかり、85マイルの旅では、バディと兄弟姉妹1人が電車などを使って移動するので、往復で7時間かかる可能性があった(表3参照)。

バディは、若者が移動時間について不満を漏らしていたことや、これがバディにとって大きな負担になっていることを指摘しながらも、若者にとっての利点とのバランスを考え、価値があることだと結論づけた。里親の中には、ミーティングにかなりの時間を割かなければならない人もいた。ある里親は、家族全員が連絡を取り合うことにプレッシャーを感じていたと語っている。その子どもは移動に往復4時間かかるので、姉妹の生活する里親家庭まで里親が連れて行き、そこからバディが迎えに行くようにしていた。

里親・児童養護施設との関係

ミーティングの段取りは、里親らとその段取りに同意し、それを守ってくれるかどうかの信頼性にかかっていることが多い。様々な状況にある若者が、時には遠距離から集まってくるという大きな課題を考えると、このプロジェクトがいかに効果的であったかがわかる。一人の里親はバディの活動を妨害し、他の数人の里親らも時間や段取りについて信頼できないことがあった。慎重に立てた計画、特に大きな移動が伴う計画を変更しなければならないことがあった。

ある里親はミーティングがどのように行われたかについてバディからフィードバックを得ることが最も有益であると述べた。別の里親は、兄弟姉妹間の話し合いが、彼女が養育している子どもがまだ覚えていない過去の実親家族の出来事に集中し、その子を動揺させているかもしれないと懸念した。3人目の里親は、兄弟姉妹間でお金のことを比較することが、現実離れた期待を抱かせることになるのではないかと心配していた。

お金のこととか、そういう情報を共有したり、比較したりしています。それはちょっと問題ですね。彼はあれを持っていて、私はあれが欲しい、彼はそういうお金を持っていて、なぜ私たちはそのお金をもらえないのか？(FC2, LA6)

これらの課題のほとんどは克服され、多くのバディや里親らは効果的な方法を確立した。さらに、バディたちは、いつでもFamily Actionのサポートを受けられることを知っていた。

結論

バディ・プロジェクトでは、6つの地方自治体の7つの兄弟姉妹グループの中から、兄弟姉妹の一部または全員と離れて養育されている23人の若者のために、様々な頻度の定期ミーティングを開くことに成功した。評価期間中、45回のミーティングが行われ、16人のボランティアのバディが66の異なる活動で若者を支援した。これらの若者たちが経験してきた不安定さは中には深刻な事例もあること、また兄弟姉妹グループ内の各々が地理的に分散して養育されていたことを考えると、これは大きな成果と言える。この評価では、3つの成果を検討した。

プロジェクトに関った子どもや若者の幸福度の変化

1つの例外を除いて、若者自身、里親、バディから得られたエビデンスは、特にソーシャルワーカーや里親が交流を監視していない状況で、若者が兄弟姉妹との交流を非常に楽しんでいることを示している。若者の中には、このミーティングで経験した新しい活動が大きな魅力だった者もいるかもしれないが、一番の魅力は兄弟姉妹に会えることであり、ほとんどの人が兄弟姉妹に会っている間は幸福さを感じ、別れたがらなかった。また若者らは、もっと頻繁に、もっと長時間、兄弟姉妹と交流したい報告した。これには、バディ達の質の高さが貢献している。

例えば、穏やかになるなど、行動が大幅に改善したと報告された若者が5人いた。年長の兄弟姉妹にとっては、兄弟姉妹だけでなく、法的な養育者の地位に縛られない公平な立場にあるバディ達と、将来のこと、人間関係、大学や住居について話し合う機会があることで幸福度は高まった。それ以外の子どもたちは、自信を持ちアイデンティティが確立されたというエビデンスがあった。

兄弟姉妹間の変化と、それに関連した兄弟姉妹以外の家族との交流

ほとんどの場合、兄弟姉妹間の変化が大幅に改善され、特にプロジェクト外で定期的な交流を経験していなかった兄弟姉妹にとっては、その効果は顕著であった。ある兄弟姉妹が他の兄弟姉妹の誰かと、または複数と「うまくいっていない」という履歴がある兄弟姉妹グループが3つあった。この3つのケースでは人間関係が劇的に改善したことが報告された。その他の兄弟姉妹については、人間関係がより親密になり、愛情が深まり、支え合うようになり、楽しさや笑いの源となったと報告された。

措置変更、死別、人間関係上の問題などの危機的状況の中で、兄弟姉妹がお互いに支え合ったこともあった。過去の肯定的な事件と否定的な事件についての話し合いがあり、ある里親は、年少の弟や妹がこのことで動揺するのではないかと心配していたが、年長の兄か姉にとっては、このことが感情の整理に役立っていたのかもしれない。また、このような兄弟姉妹と一緒に経験した過去を認めることで、家族の一員としてのアイデンティティをより強く意識するようになった若者もいた。

兄弟姉妹との交流が増えたことが、兄弟姉妹以外の家族との関係に影響を与えたというエビデンスはあまり見られなかったが、一部の里親は自信や行動の改善が家庭生活にプラスになっていると報告している。プロジェクト期間中に何度も措置変更されたことを考えると、プロジェクトが兄弟姉妹以外の家族との関係に影響を与えることができるという期待は、このプロジェクト期間内ではおそらく非現実的なものであった。

このプロジェクトの長期的な持続可能性

今回の評価では、離れて暮らす兄弟姉妹を引き合わせることの潜在的な利点を示す良いエビデンスが得られた。しかし、若者たちは、ミーティングがなくなったグループに失望し、若者とその里親らは、プロジェクトの長期的な継続性が必要であることへの懸念を示していた。

私たちは費用対効果の分析は行っていないが、この報告は誰かが同様のサービスの運営を検討する際の参考になるだろう。この事業の費用は、バディのボランティア精神に大きく依存しているため、比較的低いものとなっているが、旅費、活動費、調整や研修にはかなりの費用がかかっている。しかし、長期的に見て、若者の里親委託措置をより安定させ、さらには里親の定着率を向上させるという利益が得られるのであれば、間違いなく費用対効果は高いだろう。

提言

このプロジェクトを進めていく上で、また他の地域で展開する場合には、提供機関が検討すべき問題がいくつかある。

- **関係者が期待されることを提供機関が明確に述べ、定期的に再確認する必要がある。**

提供機関は、里親や児童養護施設の管理者に対して、プロジェクトの運営方法や、旅費、若者の待ち合わせ場所への同行、必要なお小遣い、プロジェクトの期間など、どのようなことが期待されるのかを明確にする必要がある。また、(提供機関や独立した評価機関に対して) フィードバックを与えるための要件を知らされるかもしれない。

バディの募集と研修では、長距離の移動の可能性があること、移動を伴う活動へ一日中参加すること、活動を計画することなど、バディに期待されることを説明する必要がある。提供機関は、本評価でバディが提案した、バディのためのオンラインフォーラムの開催や継続的なネットワークの構築、またバディのハンドブックへのアクセス権を付与することを検討するとよいだろう。

提供機関は、バディがボランティアであり、プロジェクトに参加することを希望したこと、活動や飲食のための予算が限られていることを、若者が理解する能力がある場合には(募集プロセスを通じて)若者に確実に理解させる必要がある。

- **若者の募集**

全体的には、通常の課題である措置変更や地方自治体の対応の遅れなどが発生し、当初の計画よりも募集が遅れた。おそらく、最初は里親養育組織(The Fostering Network など) や里親養育経験者組織(年長の若者にまだ里親養育中の兄弟姉妹がいる場合)を通じて募集し、基準を満たしていることが明らかになった時点でソーシャルワーカーに参加してもらうことが良いだろう。

- **兄弟姉妹グループの規模と年齢範囲**

参加グループのうち2グループでは、兄弟姉妹の年齢範囲が広がったため、年長者と年少者の両方にとって適切で魅力的な活動を提供することが課題となった。しかし、ミーティングの目的は兄弟姉妹が集まることを可能にすることである。そのため、活動そのものよりも「一緒にいること」が重要であり、選ばれる状況はそれを反映したものでなければならない。

- **予算**

ロンドンでは活動の費用が高騰しているため、予算と地方自治体の拠出金の程度をさらに明確にする必要がある。Siblings Together が作成したハンドブックをもっと活用すべきである。このハンドブックには、成功した活動のリストが掲載されており、プロジェクト参加者が割引を受けられるクーポン券の入

手方法が記載されている。バディが活動費を前払いして、その分の経費を請求する必要がある点は、再検討の必要があるかもしれない。

付録1：若者のインタビュースケジュール

バディ・プロジェクトの評価：若者のインタビュースケジュール

名前：

はじめに

バディ・プロジェクトについて、いくつか質問させてください。正解も不正解もありません。これは、皆さんの意見を聞くためのものです

サークル作成作業を最初にやり直してください。－ 添付ファイルを参照

ここには、あなたを中心としたサークルがあります。

重要な人物（名前ではなく CYP 監訳者注5との関係）をそれぞれ空白のカードに記入し、インタビューを受ける人が最終的に配置するまでサークルの上で移動できるようにします。その後、記入して完成したインタビュー計画表に添付してください。

監訳者注5 Children and Young People 子どもや若者

兄弟姉妹とのミーティングについて

兄弟姉妹とは、どのくらいの頻度で会っていますか？

このミーティングの良かった点は何ですか？良くなかったことは何ですか？

これまでの兄弟姉妹とのミーティングで、変えたいと思ったことは何かありますか？

あなたが兄弟姉妹と一緒にいった活動の中で、特に楽しかった活動について教えてください。

また、楽しめなかった活動も教えてください。

兄弟姉妹に会うことが、何かの役に立ったと思いますか？もしそうなら、そのことについて教えてください。

これからも兄弟姉妹に会い続けますか？もし会い続けるとしたら、何か支援を受けていますか？

例えば、お金のこと、ソーシャルワーカーや里親がミーティングを企画してくれることなどです。

あなたの帰属意識について

この質問には、子ども／若者がどのように感じているかについての5つの記述があります。

あなたは、どの程度感じていますか？	いつも感じる	ときどき感じる	一度も感じない	このように評価した理由
自分の「面倒を見てくれる」家族や友人がいる				
自分の居場所がないように感じる				
誰かが私の話を聞いてくれる				
悲しい時に元気づけてくれる人がほしい				
一緒に楽しいことをする人がいる				

幸福度について

以下の項目について、あなたがどのくらい幸せか、0 から 10 の間の数字に丸をつけてください (0 は「とても不幸せ」、10 は「とても幸せ」)。

どのくらい幸せですか？

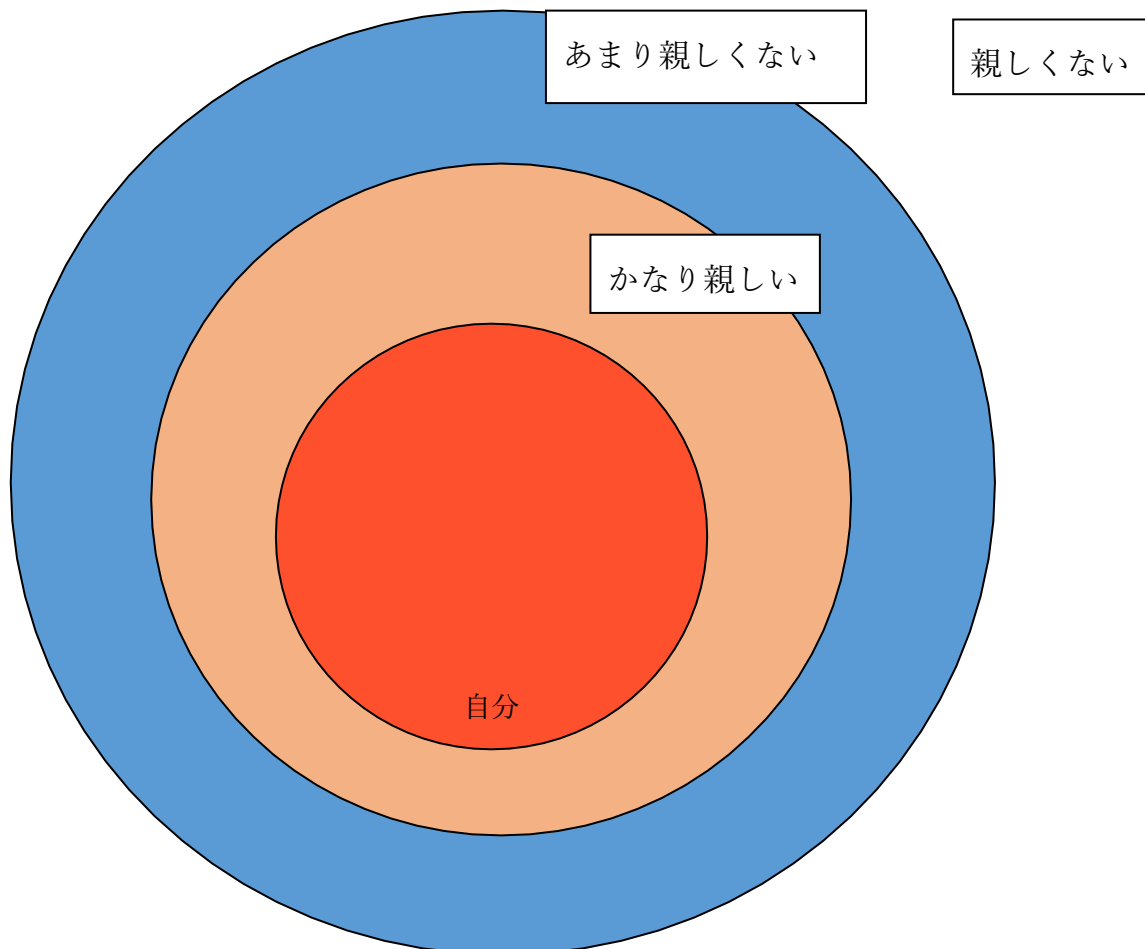
とても不幸せ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	とても幸せ
a) あなたの健康	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
b) あなたの外見 (どのように見えるのか)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
c) 自分の時間の使い方 (趣味など)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
d) あなたの将来 (今後の人生であなたに起こるかも知れないこと-幼い子どもたちは該当なし?)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
e) あなたの家族	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
f) あなたの友達	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
g) あなたが住んでいる家	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
h) あなたの里親	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	該当なし
i) あなたの持ちもの (お金 [年長の子のみ?]) や持ちもの)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
j) あなたの学校	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
k) あなたの住んでいる地域	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
l) 物事や活動をどのくらい自分で 選択できるか	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
m) どのくらい安全だと感じるか	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	

サークル作成作業

IDコード.....

この作業では、あなたの人生に現時点で関わる人達について知ることができます。

- あなたの人生に関わる人たち（例えば、あなたと関係のある人たち）を思い浮かべて、あなたが、どれだけその人たちを親しく感じているかに応じて、いずれかのサークルの中に置いてください。
- 紙に、その人達の名前とあなたとの関係（例：ソーシャルワーカー、元里親、いとこなど）を書いてください。
- あなたがとても親しいと感じる人を「自分」に一番近いサークルの中に入れてください。
- 全く親しいと感じない人は、サークルの外に置いてください。
- 親しいというのは、その人が重要な存在であり、自分を助け、支えてくれる頼りになる存在であると感じているということです。



付録2：ミーティング中の日誌の抜粋例

ダイアリーシート	
あなたの名前	
【バディの名前】	
今回の若者との時間について教えてください…	
<p>活動内容</p> <p>私たちは、子どもたちを[場所の名前]レジャーセンターに泳ぎに連れて行きました。セッションが1時頃に終わると、私たちは2階のカフェで昼食をとり、3時半頃まで屋内遊び場に行きで楽しみました。</p>	
<p>考察</p> <p>子どもたちは、みんなで一緒に暮らしていたときの生活について話しました。女の子は特にそのことを覚えていて、男の子の身支度や髪の毛の手入れなどを手伝ったことを思い出していました。このため、男の子たちは誰が自分の家族なのか混乱していました。彼らは[バディ]と私に「あなたたちも家族なのか」と尋ね、私たちは「友達だよ」と答えました。また[若者の名前]は時々[里親の名前]をお母さんと呼ぶこともあります。[若者たちの名前]は、ジャマイカのおばちゃんに会いに行くと言っていましたが、そこは以前に海で泳いだことのある場所でした。</p>	
<p>兄弟姉妹間のやりとりを説明してください</p> <p>子どもたちは皆、再会を喜び、泳ぎに行くことに興奮しているようでした。ちょっとした水しぶき以外は、すこし寒かったですが、プールでみんな良い子にしていました。室内遊び場で遊んだ時、[子どもの名前]が（ウェイトレスから）無料のアイスクリームをもらえたのに、[他の兄弟姉妹の名前]は、自分にはもらえなかったので、しばらくすねていました。彼女は室内遊び場で遊ばずに、私たちと一緒に隅に座っていました。帰る時間になって、[2人の兄弟姉妹の名前]を室内遊び場から出てこさせるのが大変でした。</p>	
<p>重要な点</p> <p>子どもたちは皆、「楽しかった」「次の訪問が楽しみ」と言っていました。</p>	
<p>次回の訪問計画とおおよその日程</p> <p>2月（日付は未定） 子どもたちが「今度はお寿司を食べに行きたい」と言っていたので、そうしてみようと思います。</p>	

付録3：ブリストルでのプロジェクト第1期の報告

プロジェクトの第1期では、2つの兄弟姉妹グループがあった。

グループ1には3人の兄弟姉妹がいて、そのうち1人は独立して生活し、1人は児童養護施設で、1人は里親家庭で生活していた。グループ2は2人の兄弟姉妹で、どちらも里親家庭で生活していたが、1人は2014年10月に半自立生活に移行した。グループ1は、2013年8月～2014年12月まで16回のミーティングを実施した。グループ2は、2014年9月～2015年1月に5回のミーティングを実施した。

グループ1の結果

プロジェクトの開始時、若者たちは家族について最も不幸せであり（幸福度の尺度で）、里親・児童養護施設の職員、時間の過ごし方、そして1事例では学校について最も幸せであった。残念なことに、3人の兄弟姉妹は全員、プロジェクト終了時にインタビューを受けることを拒否した（彼らは自分の予定の都合をつけることを拒否したことから、拒否というよりは優先順位が低かったと見るべきかもしれない）。

兄弟姉妹の一人の里親（または児童養護施設職員）^{監訳者注6}は、自分が養育する兄弟姉妹がこのプロジェクトから大きな恩恵を受けたと考えている。兄弟姉妹は、どこに行ったか、何を食べたかを里親（または児童養護施設職員）と話し合っていた。彼女が養育した若者は、兄弟姉妹との交流に自信を持つようになった（兄弟姉妹の一人は特別なニーズがあり、彼女はもう一人を「威張っている」と表現した）。里親（または児童養護施設職員）はバディのことを、「…本当に素敵な女性で、本当に相性が良かった…」と表現した。（ブリストルでは、「バディ」に相当するのが「Allies（協力者）」である点を認識しておくことが重要である。）

^{監訳者注6} グループ1は、里親家庭と児童養護施設で生活している若者が1名ずついるため、carer が里親か施設職員のどちらを指すか限定できない。

2人のソーシャルワーカーはプロジェクトに肯定的であり、そのうちの1人は特に肯定的であった。彼女は、このプロジェクトがとてもうまくいったと感じており、若者に対して法的な責任を負わない立場の人たちがいる状況で兄弟姉妹が会うことで、兄弟姉妹をより自然に交流させ、若者たちが人生の決断に集中しなくて良くなるという大きな違いを生み出したと感じていた。以前は、兄弟姉妹は児童福祉サービスを通じて公式に会うだけであったが、どのような活動をするか合意するのに苦労していた。また、ソーシャルワーカーが1人しか参加していなかったためサポートが不十分であった。バディプロジェクトが始まると、最初は最年長の兄姉が支配的に家族に関する知識を他の2人に報告した。「Allies（協力者）」はそれを邪魔しなかったが、ソーシャルワーカーがそのことを指摘すると対応するようになった。彼女が関わった若者は、あらゆる面で大きく成長しており、このプロジェクトは彼女が家族関係を管理するのに役立つ。

ソーシャルワーカーの2人と里親（または児童養護施設職員）の1人は、プロジェクト終了後の3人の兄弟姉妹の交流について、矛盾した説明をした。グループ1の若者担当の一人のソーシャルワーカーによると、グループは2014年12月にミーティングを続けるための資源がないためミーティングをやめたそうである。しかし、兄弟姉妹のうちの1人の里親（または児童養護施設職員）は、2人が週に1回会い（他のソーシャルワーカーによると、この里親（または児童養護施設職員）が調整していた）、電話で話していると報告しており、彼女が養育している若者は2人の姉妹と定期的に連絡を取っているとのことであった。他の2人の兄弟姉妹は時々会っているが、児童養護施設にいる1人が人前でひどい態度をとるので他の2人は問題が多いと思っていると彼女は考えている。誰も3人の兄弟姉妹が一緒に会うことを提案しなかった。一人の兄弟姉妹が一番年長の兄姉のアパートを訪れている。

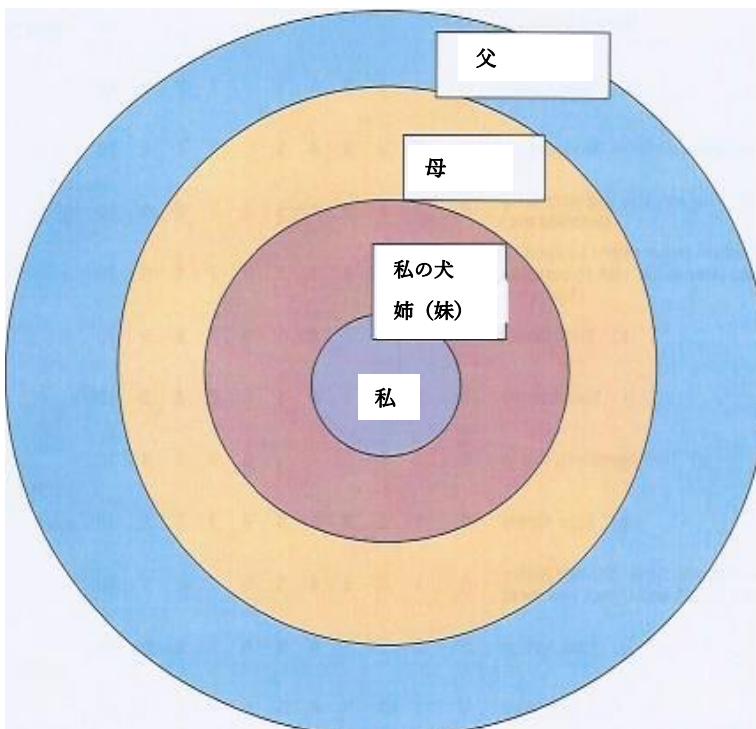
グループ2の結果

ある若者は、彼がその年に兄弟姉妹に6回あったこと（私たちの記録にあるのは、4回のミーティングとミーティングを行ったと告げられた1回のみである。）、そしてそれを楽しんだことを語った。「…僕とXは笑ったり、プロレスごっこをしたり、走り回ったり、冗談を言って、ぶらぶらして過ごしたりした。」さらに次のように語った。「彼女は良いアドバイスを与えてくれます。彼女は僕の本当の家族です。それがもっと普通に感じます…。」彼は、ミーティングの頻度や時間をもっと増やして欲しかったと語った。

2014年10月に若者の1人が里親養育を離れて自立した生活を始めた。里親によると、プロジェクト前（ソーシャルワーカー立ち合いのもとで会っていた頃）と比べて兄弟姉妹がお互いに会う機会が増えたわけではないが、ミーティングが計画されており、それが必ず実現することがわかっていたので、兄弟姉妹間の関係についてのストレスが減ったそうである。彼女が養育した若者は、彼女とミーティングについて話し合わなかった。別の若者の里親は、ほかの兄弟姉妹がキャンセルすることが多いため意図していたほど頻繁に会っていないことを確認した。この里親は自分が養育している若者がミーティングについて話してくれたと報告した。プロジェクト終了後、彼らは何度か会っているが、里親は、もう1人の兄弟姉妹が彼を公園で1時間も待たせたことがあった出来事を語った。この里親は、若者が妹（または姉）による交流のキャンセルに対処するのが非常に難しかったためバディプロジェクトは時間の無駄だと考えていた。また、バディが若者に知らせずにニューヨークに住むために姿を消してしまい、これが若者に大きな動揺を与えた。

「このような子たちにとっては、ちょっとした失望に思えることが、ひどく失望させ大きなダメージを与えることになるのです。」（里親）

この里親は、このプロジェクト（あるいは彼女が混同していたと思われる協力者の仕組み）をやや否定的にとらえていたにもかかわらず、兄弟姉妹の1人は、このプロジェクトが、それまで仲が悪かった姉（または妹）との関係を改善するのに役立ったと確信していた。プロジェクト終了時のインタビューでは、彼の幸福度尺度のスコアが大幅に上昇し、特に家族との幸福度についての項目では、スコアが5から10に上昇した。人生の中で親しいと感じる人を聞くと、彼は姉（または妹）を中心の同心円1.5個分の位置に移動させた。



Bristol の全体的な結論

賛否両論はあるが、全体として、グループ1の姉妹は、互いの交流と兄弟姉妹以外の家族との関係の両方で自信を得たようである。グループ2では、里親とソーシャルワーカーはいくつかの懸念を抱いていたが、若者の1人は、姉（または妹）と会うのが楽しく、もっと会いたがっていたことは明らかだった（姉（または妹）が二人の約束を頻繁にキャンセルしたため、その希望には応えられなかったのかもしれない）。彼が感じた幸福度は大きく向上した。どちらのグループでも、法定のサービスとは関係のない人と一緒に会うことの重要性についてのエビデンスが示された。Bristolの両グループでは、プロジェクト終了後も兄弟姉妹間の交流が継続している。

早稲田大学大学院総合研究機構
社会的養育研究所
監訳チーム
担当：中川友生（神戸市総合療育センター）
2023（令和5）年 3 月

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION